



委員長メッセージ

～「STI for SDGs」アワードに応募を検討される皆さまへ～

皆さまもご存知の通り、「SDGs（持続可能な開発目標）」は目標達成年を2030年に設定しています。残された期間はあと10年を切っており、2020年からの10年間は「行動の10年」として目標達成に向けた具体的な活動をさらに進めていく時期となっています。

「STI for SDGs」アワードは、科学技術イノベーション（STI）がSDGsの達成に一層貢献することを目指して、2019年度に創設されました。STIを使って社会課題を解決する優れた取り組みを表彰することにより、その取り組みのさらなる発展や、取り組みを広く周知することで同じような課題を抱える方々に活用してもらうことにより、SDGsの達成に貢献することを目的としています。

STIという言葉の響きから、最新技術・先端技術を使った取り組みを想像されるかもしれませんが、本アワードでは、科学技術の先進性やレベルは審査の対象とはしていません。過去の受賞取り組みも、そのSTIの活用方法はさまざまであり、受賞された団体の性質や、そこで活動されている方々の世代もバラエティーに富んでいます。受賞取り組みは、STIそのものではなく、いずれも解決策へのSTIの活用方法や、課題を解決することでの社会へ与えるインパクトの大きさ、その後の発展性・展開性について優れていたことが評価されました。すでに社会に流通している既存技術であっても、うまく活用して解決策に取り入れることで社会課題の解決を実現することはできるのです。皆さまの周りにも、そのような取り組みはたくさんあるのではないのでしょうか。

昨年に引き続き、世界中が新型コロナウイルス感染症拡大という共通の難局に向き合い続けている今ほど、SDGsの掲げる「誰ひとり取り残されない」理念や持続可能であることの重要性を身に染みて考えさせられる時はありません。2030年の目標達成に向けた「行動の10年」としてSDGs達成のための活動を更に加速させ実効性あるものとするため、今年度も数多くの皆さまからの積極的なご応募をお待ちしております。

「STI for SDGs」アワード選考委員会委員長 蟹江 憲史
(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授)